

このホームページの使い方と『マニュアル』（指導用手引き）について

この「TUFs えいごであそぼう」のホームページには次のような 3 種類のページがあります。

この 3 種類のページすべてに対応する **Teacher's Manual** すなわち「指導用手引き」が用意されています。（以下の説明では、この手引きを『マニュアル』と呼びます。）

いずれのページに進むときも、先に『マニュアル（=Teacher's Manual すなわち「指導用手引き」）』の **Part I** を読むことをおすすめします。

1 教室用ページ

- ・ 教師(指導者)が教室などで教えるときの指導に活用できるページです。
- ・ 教師が、複数の生徒を教える場合を想定して書かれています。
- ・ この「教室用ページ」から「マニュアル」にリンクがはってありますので、必要に応じて「マニュアル」の記載事項を参照してください。
- ・ この「教室用ページ」からは「練習問題ページ」にもリンクがはってあります（画面右下コントロール部分）。

2 学習者用ページ

- ・ 学習者が自分で学習するための自習用のページです。
ただし、ページの構成上、中学生以上でないと一人で進めるのは難しいかもしれません。幼児や小学生には大人が付き添って手助けしてください。
- ・ 簡単なレベルから学びなおしたい大人も使えます。
- ・ 教室指導の補助や予習・復習用としてもつかえます。1の「教室用ページ」や「マニュアル」とあわせて利用してください。
- ・ この「学習者用ページ」からも「練習問題ページ」にリンクがはってあります（画面左メニュー部分）。

3 練習問題ページ

- ・ 各ダイアログの教室用/学習者用ページに対応する練習問題集です。
- ・ 教室用としても自習用としても活用できます。
- ・ このページに対しての正解・和訳・解説は「マニュアル Part III」に示しました。

マニュアルの構成

このマニュアルは大人向けに書かれています。

子供に対しては、大人がこのマニュアルを参考にして学習の手助けをしてあげてください。

マニュアルの使い方については下の「マニュアルのねらい」で詳しく説明してあります。

なお、このマニュアルはダウンロードしてファイルとして保存し、随時参照したりプリントアウトしたりすることができます。

このマニュアルの構成は以下のようになっています。

Part I: Introduction [はじめに]

マニュアルのねらいや使う上での注意点、「TUFUS えいごであそぼう」の教材全体の背景説明などにふれています。はじめに読むことをおすすめします。

- ① このマニュアルのねらい
- ② 「機能」の説明と機能リストの概説→全 40 機能のリスト
- ③ ダイアログ登場人物の紹介
- ④ ストーリーの流れ
- ⑤ ストーリー順一覧

Part II: For the teacher [教師の理解のためのヒント]

指導のための解説、訳例などを示します。

- ① 英文ダイアログ
- ② 口語訳
- ③ 逐語訳
- ④ 口語訳と逐語訳のちがいの説明
- ⑤ キーセンテンスの解説

Part III: Exercise [ダイアログ付属の練習問題の和訳・解答と解説]

各ダイアログの教室用ページに対応する練習問題が練習問題ページに示されています。この Part III では、それらの練習問題の和訳・正解・解説を示します。

Part IV: Classroom Activities [教室活動のためのアイデア]

Part IV では、Part III に示されている練習問題の和訳・正解・解説の発展として、実際に教室で行なうアクティビティ(活動)のアイデアを挙げてあります。

Part V: Additional Information [その他の付加的な情報]

マニュアル Part V には付加的、発展的な表現を参考として示しました。

Part I: Introduction

① マニュアルのねらい

■このマニュアルは「TUFS えいごであそぼう」の会話モジュール教材を使って英語を教えようと思う指導者に向けてつくられたものです。この教材は子供（特にアルファベットや基礎的な英語が少しわかる小学校高学年）をターゲットに作られています。そのため、ここで扱う題材やアクティビティなども子供の日常に即したものや、子供の認知、興味に即したものとなっています。

■このマニュアルは指導者（教師）に向けて書かれています。そのため、学習者（生徒）にとっては難しかったり、わかりにくかったりする内容も盛り込まれています。例えば、解説や逐語訳は大人である教師自身の理解を促進するために掲載してあるもので、これらの情報をそのまま生徒に提示することは避けたほうがいいでしょう。実際の教材の内容以上に生徒が難しく感じてしまう恐れがあるからです。

■教室活動案はあくまで参考アイディアです。教室の人数、男女比、年齢構成や設備の面などいろいろな要素によって実際の活動内容は変わってくるものです。教師それぞれの判断で使いやすいものを選んで適宜アレンジしてください。

■マニュアルに書いてあることすべてをカパーしなくてはいけないと思わないでください。このマニュアルはあくまでも指導者（教師）の参考と手助けのためにつくられたものです。どの程度まで活用するかは指導者が判断し、生徒のレベルや興味に応じてとばしたりしてもかまいません。

②「機能」の説明と機能リストの概説→全 40 機能のリスト

まず、言語の「機能」（英語で“function”）とは何でしょうか？ 機能とは、ある表現がどういう意味役割をもっているか、あるいはどういう働きをしているかということです。例えば、Thank you. と言えば、その意味役割は「感謝する」ことだと一般的には言えます。How much ... ?の表現の働きは、値段を聞くことです。この教材で提供されるダイアログはこうした言語の機能を中心に作られています。つまり、How much ... ?は「WH 疑問文」という表現の形・構造ではなく、「情報を求める（金額）」という機能を表す表現として紹介されています。この教材では全 40 個のダイアログ、すなわち全 40 個の機能を取り上げています。

参考のために全 40 機能の中から、例をいくつか挙げておきます。

例： [機能]01 挨拶をする →[表現]「おはよう。」「元気ですか。」
[機能]23 ある条件での行動を言う →[表現]（もし～したら...しよう）

全 40 機能のリスト

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 01, 挨拶をする | 21, 手順と順序について述べる |
| 02, 感謝する | 22, どうしているかをたずねる |
| 03, 注意をひく | 23, ある条件での行動を言う |
| 04, 自己紹介する | 24, 比べて述べる(比較と最上級) |
| 05, あやまる | 25, 提案する |
| 06, 何かをあげる | 26, 理由を述べる |
| 07, さよならを言う | 27, 依頼する |
| 08, 情報を求める(金額) | 28, 例をあげて述べる |
| 09, 情報を求める(経験) | 29, 妥協する |
| 10, 予定を言う | 30, 許可を求める |
| 11, 情報を求める(程度) | 31, 義務を確認する/肯定する |
| 12, 情報を求める(時間) | 32, 禁止する |
| 13, 情報を求める(数字) | 33, 指示する |
| 14, 何でどのようにするかを言う | 34, 非行為を依頼する |
| 15, 技能と能力についてたずねる | 35, 義務を確認する/否定する |
| 16, 情報を求める(存在と場所) | 36, 招待する |
| 17, 情報を求める(属性) | 37, 助言する |
| 18, 意見を言う | 38, 要求する |
| 19, 嗜好について述べる(もの) | 39, 希望を述べる |
| 20, 嗜好について述べる(行動) | 40, 人を紹介する |

③ダイアログに登場する主な人物の紹介

圭 小学5年生の日本人の少年。両親とともに日本に住んでいます。父親の仕事の関係で以前にアメリカに滞在していたことがあり、英語が少し話せるという設定です。日本人の英語話者という設定のもと、発音や使用する表現が日本人の学習者に身近に感じられるよう配慮してあります。

Julie 圭がアメリカにいた時の友達。両親と兄と妹がいます。圭の家族とは、家族ぐるみの付き合いをしていました。圭に誘われて夏休みに一人で来日し、圭の家に滞在することになります。

Heinrich インターナショナル・スクールの4年生。インターナショナル・スクールのバザーで圭と出会い、友達になります。スイスから来日してまだ数ヶ月です。国際語としての英語を不自由なく操ることができ、さらに他の言語も堪能です。

Mrs. McDonald 日本で圭が通う英語の保持教室の先生。

Mr. Wilson 圭がアメリカにいたときの小学校の先生。

④ストーリーの流れ

全40ダイアログは一連のストーリーの流れに沿って展開しています。物語としては、アメリカから帰国して間もない圭が日本の小学校に通い始めるところから始まります。圭は英語の保持教室にも通いながら、覚えた英語を忘れないように使おうとがんばっています。インターナショナルスクールのバザーに出かけて行きハインリックに出会い、友達になります。夏休みにジュリーが来日し、圭の家に滞在することになります。ジュリーと一緒に日本の夏休みを過ごし、最後はジュリーを空港まで見送りにいって別れる場面で物語は終わります。

⑤ストーリー順一覧

ストーリーの順番は、機能リストの順番と異なります。ここではストーリーの順番に沿って全40機能を並べ替えたものを示しています。指導する際には、ストーリー順にダイアログを取り上げていった方が、生徒達にはわかりやすいでしょう。

機能 番号	機能	ストーリー 順序	状況
02	感謝する	1	ウイルソン先生と電話で話し、写真のお礼を言う
04	自己紹介する	2	保持教室で自己紹介する
01	挨拶をする	3	朝、マクドナルド先生に挨拶する
20	嗜好について述べる(行動)	4	マクドナルド先生に漫画が好きであることを話す
30	許可を求める	5	マクドナルド先生にレポートの課題について相談する
34	非行為を依頼する	6	ろうかで遊んでいると、マクドナルド先生に叱られる
38	要求する	7	マクドナルド先生に机の上を片付けるよう注意される

08	情報を求める(金額)	8	インターナショナル・スクールのパザーで本を買い、ハインリックと出会う
03	注意をひく	9	インターナショナル・スクールのパザーを訪れ、道に迷う
17	情報を求める(属性)	10	ハインリックが圭をカフェテリアまで案内する
15	技能と能力についてたずねる	11	インターナショナル・スクールのパザーで、ハインリックと話す
31	義務を確認する/肯定する	12	ハインリックから日本人の家を訪ねる時のマナーについてきかれる
09	情報を求める(経験)	13	ハインリックと遊園地に行く計画を立てる
29	妥協する	14	ハインリックと遊園地でどのアトラクションを選ぶか話し合う
13	情報を求める(数字)	15	ハインリックとサッカーのチケットの送付方法を相談する
23	ある条件での行動を言う	16	ハインリックとピクニックの予定を立てる
26	理由を述べる	17	ハインリックが外で遊ぼうと誘う
40	人を紹介する	18	マクドナルド先生にハインリックを紹介する
36	招待する	19	アメリカにいるジュリーと電話で話し、訪日を誘う
10	予定を言う	20	ジュリーの来日前に、ハインリックと夏の予定について話す
18	意見を言う	21	ジュリーが来日したら何をあげるか、ハインリックに相談する
22	どうしているかをたずねる	22	ジュリーが到着し、家族が元気が尋ねる
32	禁止する	23	ジュリーの来日初日、家の決まりごとを説明する
35	義務を確認する/否定する	24	ジュリーが食後の片付けについて尋ねる
12	情報を求める(時間)	25	テレビゲームで遊んでいるが、ジュリーは時差ボケでねむそう
11	情報を求める(程度)	26	圭のお父さんの出勤を見送った後
05	あやまる	27	英語クラブを訪ねようとしたジュリーが遅刻する
06	何かをあげる	28	英語クラブでジュリーの歓迎会をする
28	例をあげて述べる	29	ジュリーに商店街のお店の説明をする
14	何でどのようにするかを言う	30	ジュリーと一緒に絵をかき
27	依頼する	31	ジュリーと一緒に絵をかき
24	比べて述べる(比較と最上級)	32	ジュリーに自分が描いたマンガについて説明する
16	情報を求める(存在と場所)	33	ジュリーと動物園に行く
21	手順と順序について述べる	34	ジュリーからホットケーキの作り方を習う
25	提案する	35	ジュリーと週末の予定を立てる
33	指示する	36	ジュリーにテレビゲームの仕方を教える
39	希望を述べる	37	ジュリーと将来の夢について語る

37	助言する	38	ハインリックと秋の予定について話す
19	嗜好について述べる(もの)	39	ジュリーと朝ごはんを食べ、和食の好き嫌いについて話す
07	さよならを言う	40	帰国するジュリーとお別れ

Part II: For the teacher [教師の理解のためのヒント]

■これは、教師が教材をよりよく理解するための情報を提供するパートです。

■このパートの内容は学習者(生徒)には示さず、指導者(教師)のみが参照するものです。発展的な内容や付随する知識などは、生徒に示すとかえって混乱させたり、難しく感じさせてしまう恐れがあります。必要に応じて生徒にこのパートで教師用として提示している内容の一部を説明したり、補足的に与えたりする際にも、その点に十分気をつけましょう。

■各センテンスにセンテンス番号をつけてあります。

■口語訳、逐語訳、説明すべてにこのセンテンス番号は対応しています。

■マニュアルの各ユニットでの構成は以下のようになっています；

- ① 英文ダイアログ
- ② 口語訳
- ③ 逐語訳
- ④ 口語訳と逐語訳のちがいの説明
 - ・ 文法や語彙、発音などについて、口語（実際の自然な会話の中で使われ方）と文語（教科書的な「用法」）の違いについての解説も必要に応じて加えてあります。
- ⑤ キーセンテンスの解説：
 - ・ キーセンテンスの「機能（どんな働きをするか）」の説明や、簡単な文法解説や語彙の解説を補足しています。

Part III: Exercise [ダイアログ付属の練習問題の解説]

■このパート III は問題の解答解説及びパート IV（活動編）への橋渡しです。

■それぞれの問題について、正解、問題文の和訳、解答の和訳、解説が載せてあります。

■問題文に出てくる表現、さらには関連する他の例文なども取り上げて、それぞれのダイアログのターゲットをより詳しく説明するパートとなっています。

■問題の中には、自由解答形式、すなわち生徒が自由に答えるため答えが一つに決められ

ないような問題もあります。このような場合、示されている「正解例」はあくまでも一つの例です。パソコン画面では各問につき正解例をひとつしか示していませんが実際にはいろいろな答えが考えられます。このような問題については、このマニュアルの方に他の正解例も複数載せでありますので参考にしてください。

Part IV: Classroom Activities [教室活動のためのアイデア]

- ダイアログに基づいた具体的な活動案を紹介する実用的なパートです。
- ここでは、実際に教室で行なう活動のためのアイデアやコミュニケーションを重視したさまざまな活動を紹介していきます。
- ここで挙げるような活動例をもとに、アレンジなども加えながら教室での実際の活動の際に役立ててください。

Part V: Additional Information [その他の付加的な情報]

- ここでは、ダイアログやキーセンテンスの直接的な説明ではなく、そのほかの付加的な情報を紹介しています。
- キーセンテンスのさまざまな言い換えのパリエーション (variations) など示してあります。例えば相手が目上の場合と目下の場合では同じことを伝える場合でも言い方が変わることがあります。そのような場合に、表現がどのように違うかを紹介します。
- 相手に関わらず広く使える表現や非常にていねいな表現、親しい相手に使う表現など、状況や相手に応じて変わる場合も紹介していきます。